

2-2 教育改革事務部門管理者会議

<事業計画>

加盟校の事務局長、部課長等を対象に、教育改革・全学的教学マネジメント改革に向けた ICT 活用の工夫、情報環境の整備と課題、情報セキュリティ対策に関する課題認識を共有するため、「教育改革事務部門管理者会議」を実施する。

(1) 開催要項の策定

学生個人個人の学修成果を可視化して学修の成果を学修者が実感できるための教育研究体制と質保証の在り方の整備が求められていることから、全学的な教学マネジメントの確立、学修成果の可視化と情報公表の促進について認識を共有する中で、学修成果の可視化による質保証の取組みと課題、ICT による教育の質的転換と教学マネジメントの促進支援・IR の取組みなどについて、最新の情報を提供し、教育改革の促進に向けて理解を深めることにした。

2019年度教育改革事務部門管理者会議開催要項

日 程：令和元年10月31日(木) 13:30～17:00

会 場：アルカディア市ヶ谷（東京、私学会館）5階穂高

1. 開催趣旨

文部科学省では、2040年に必要とされる人材像と高等教育の目指すべき姿として、学修者本位の教育への転換を目指す中で、「何を学び、身に付けることができたのか」を明らかにし、学生個人個人の学修成果を可視化して学修の成果を学修者が実感できるための教育研究体制と質保証の在り方の整備が提言されております。

そこで本会議では、全学的な教学マネジメントの確立、学修成果の可視化と情報公表の促進について認識を共有する中で、学修成果の可視化による質保証の取組みと課題、ICTによる教育の質的転換と教学マネジメントの促進支援・IRの取組みなどについて、最新の情報を提供し、教育改革の促進に向けて理解を深める機会としました。

2. プログラム

13:30 開会挨拶 向殿 政男 氏（私立大学情報教育協会会長）

13:35 講演 「教育の質の保証と情報公表-教学マネジメント確立に向けた指針の検討、全国的な学生調査による教育の可視化」

奥井 雅博 氏（文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐）

文部科学省中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会で検討中の「教学マネジメント指針」に盛り込むべき主な事項の全体像などと、大学教育の状況を学生目線で「見える化」することで大学教育を変えていく「学生調査」などについて、その目的・内容・方法等を紹介いただきます。

14:35 講演 「社会に通用する学修成果の獲得と卒業時の質保証の取組と展望（東京都市大学における教育改革）」

皆川 勝 氏（東京都市大学副学長、教育開発機構長）

学生が卒業段階で獲得した能力を「ディプロマサプリメント」により客観的に社会に提示・活用できるようにするため、各学年次における「プレ・ディプロマサプリメント」の活用、キャリアポートフォリオの機能を包含したeポートフォリオの活用を通じて、学修習熟度を学生と教職員が共有し、学生が主体的に学びのPDCAサイクルで成長を促していく取組みと展望を紹介いただきます。

15:35 休 憩

15:50 講演 「学修成果の可視化と学生 IR システムによる教育改善活動の取組と展望 -学生の主体的な学びのデザインを目指して-

市村 光之 氏（横浜国立大学大学院教育強化推進センター教授）

学部教育の内部質保証システムを牽引していく両輪として、「学力と就業力」を可視化し、学生ポートフォリオに組み入れ、「学生自

らが学修成果を把握し、次の学びを主体的にデザイン」できる行動様式に変容させることを目指して、入学から卒業後まで質保証の伴った総合的な大学教育改革の取組みと展望を紹介いただきます。

16:40 関連情報の提供

「私立大学情報環境白書(2018年度版)」と「平成30年度教育への情報化投資の実態」などを予定

17:00 閉会

(2) 実施結果

69大学3短期大学から117名の参加があった。以下に、実施結果の概要を報告する。

- ① 「教育の質の保証と情報公表」として、文部科学省から教学マネジメント確立のための「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」について、学修成果の把握・可視化や情報公表などについて必要性を確認した。また、全国的な「学生調査」による教育の可視化について、目的・内容・方法等が説明された。
- ② 「社会に通用する学修成果の獲得と卒業時の質保証の取組と展望」として、卒業段階での「ディプロマサプリメント」、各学年次での「プレ・ディプロマサプリメント」の活用、eポートフォリオの活用を通じて、学修習熟度を学生と教職員が共有してPDCAサイクルで成長を促していく取組みが紹介された。
- ③ 「学修成果の可視化と学生IRシステムによる教育改善活動の取組と展望」として、「学士力・就業力」の可視化、学修成果の検証、PDCAサイクルの構築について「学生にフォーカスし一貫して見通すIRシステム」をポートフォリオや学修・生活行動チェックシートなどの活用により、入学から卒業までの学生の主体的な学びをデザインするエンロールマネジメントの取組みが紹介された。
- ④ 参加者のアンケートでは、「一步深く入り込んだ内容で勉強になった」、「教育の質保証システム普及に関する取組みに期待する」などの感想が寄せられた。

【他3】研究会等のビデオ・オンデマンド配信

大学教員のファカルティ・ディベロップメント、職員のスタッフ・ディベロップメントの貴重な資料として、教育方法及び教材開発、教育・学修支援の情報通信技術活用などの講演、事例紹介の著作権処理済みコンテンツをデジタルアーカイブしてデータベース化し、希望する会員に有料でオンデマンド配信している。

コンテンツは、平成29年度129件、平成30年度122件、2019年度(令和元年度)152件の合計403件となっている。

2019年度分の配信分配金は、正会員の規模に応じて33,000円から55,000円、賛助会員は一律44,000円となっているが、2年目は10分の1(平成30年度)、3年目のコンテンツ(平成29年度以降)はすべて無料としている。利用人数は無制限で参加申し込みはWebサイトで行っている。